

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ 漁業を体験

7月11日、湧別小学校の総合的な学習の授業で、サロマ湖の地引網漁体験が行われました。

当日は、湧別漁業協同組合青年部があらかじめ三里浜キャンプ場前の沖合に仕掛けた地引網を、5年生の児童33名が引き上げました。獲れた魚の名前や特徴などを青年部員から詳しく説明を受け、サロマ湖で獲れる魚介類について学びました。

その後、登栄床漁港に移動して児童らは係留している漁船の上で、漁師の仕事やサロマ湖の自然について青年部員から話を聴きました。



【地引網体験】



【お魚学習】



【漁業学習】

◆ 地元の食材で調理実習

10月7日、湧別中学校の1年生39名が、地元食材を使った調理実習が行われました。

湧別漁業協同組合より朝獲れたばかりの新鮮な秋サケが提供され、指導漁業士や漁協女性部員の指導で、捌き方を学んだ後、鮭コロッケやチャンチャン焼きなど、自分達で調理したサケ料理を味わいました。

生徒達は地元で獲れる秋サケの美味しさに舌鼓を打っていました。



【秋サケの捌き方を指導】



【できあがった料理を笑顔で味わう生徒達】

◆ サロマ湖漁港漂砂対策

平成 24 年 1 月と同年秋に埋塞したサロマ湖第 2 湖口の埋塞メカニズムの検証と抜本対策の検討を行う「サロマ湖漁港漂砂対策技術検討委員会(委員長:山下俊彦北海道大学大学院工学研究院教授)」の第 1 回目の会合が網走市で開催されました。

委員会では、第 2 湖口の現況として沿岸漂砂調査、深淺測量調査の結果が報告されました。今後は、現地での波浪・流況調査、沿岸漂砂量調査、潮流によって砂を押し出す「フラッシュ機能調査」が予定され、来年 3 月に抜本対策計画がまとめられます。網走開発建設部をはじめとする関係機関の協力によりサロマ湖地域の漁業が支えられています。



【第 1 回委員会:網走市エコセンター】

◆ ホタテ耳づくり作業



【ピン通し作業】

9 月中旬から、サロマ湖内でホタテの耳づくり作業が始まりました。2 年貝の蝶番の横の通称「耳」と呼ばれる貝殻の位置に小さな穴を開け、ロープに等間隔で埋め込まれたプラスチック製のピンをここに通し、ロープ 1 本当たり 60 枚程度のホタテ貝を吊り下げます。サロマ湖内で越冬させ、来年夏にサロマ湖の 3 年貝ホタテとして水揚げされます。



【養殖施設へホタテを垂下】

◆ 都内でサロマ特産品を P R

10 月 12 日～13 日に港区芝公園で「みなと区民まつり」、同 19 日～20 日には江東区木場公園で「江東区民まつり」が開催され、佐呂間漁協や佐呂間町観光物産協会が参加して、オホーツク海・サロマ湖の魚介などの特産品を都心の方々に広く P R しました。数十万人が訪れるこの催しでは、新鮮な海産物が味わえたり、水産加工品が購入できるとあって、ブースの前には最後尾が見えない程の長い列ができ大盛況となりました。



【みなと区民まつり】

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会
編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当
〒099-6404 湧別町栄町 112 番地の 1
湧別町総合支所産業振興課水産林務係
Tel 01586-5-3763 ・Fax 01586-5-2283
Mail sangyo@town.yubetsu.lg.jp

2013. 11. 15

